

氏 名	おか だ ふみ お 岡 田 文 男		
学位(専攻分野)	博 士 (学 術)		
学 位 記 番 号	博 乙 第 32 号		
学位授与の日付	平成 7 年 3 月 24 日		
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 2 項該当		
学 位 論 文 題 目	遺跡出土の漆器における材質および製作技法の変遷に関する保存科学的 研究		
審 査 委 員	(主査) 教 授 佐 藤 昌 憲	教 授 榊 原 保 正	関西大学 教 授 高 橋 隆 博

論 文 内 容 の 要 旨

第 1 章:約六千年前から東アジア地域、特に中国や日本において、漆の樹液が木製品などの表面加工に利用されてきたことは考古学的に実証されている。しかし、従来の漆器の研究は表面の観察や、文献によるものが大部分で、科学的解明は殆ど進んでいない。さらに漆器の基材である木材は脆弱で、出土遺物の多くは劣化が著しく進行し、保存処理に関しても問題が多い。

申請者は中国、朝鮮半島、日本など各地域、及び各時代(約 2000 年以前より)に渉る約 150 点以上の出土漆器を対象とし、その微小断片を採取して薄片に研磨し、光学顕微鏡、電子顕微鏡、蛍光 X 線分析、EPMA、などの諸方法により科学研究を行い、地域による材質の相違、製作年代による技法の変遷と伝播などを解明することを目的とした。

第 2 章:出土漆器の材質や製作技法を研究するには、漆器の塗膜断面の薄膜試料を作成し、上記の科学的手法を適用するのが有効である。従来から試料を硬質樹脂で固め、研磨して薄片を作成する方法がある。短時間内に多数の検鏡試料を作成でき、他の有機遺物全般にも応用できるが、試料作成に際し、極めて熟練を要する欠点がある。申請者は医学の分野で用いられてきたセロイジンとパラフィンで試料を二重包埋してミクロトームで切片にする方法を、文化財の分野に初めて導入した。本方法では刃こぼれの生じるほど極めて硬い試料以外は、熟練を要せず多数の試料を短時間に処理できる。

第 3 章:日本各地の縄文時代から古墳時代の試料では、縄文後期、晩期にはベンガラ、辰砂を混ぜた赤色漆を重ねて塗布している。縄文晩期後半には下地に木炭粉、黒色物質を混ぜ、その上面に透明な漆を塗り、さらに表面に赤色漆を塗ったものがある。弥生時代前期後半から増加し、中期に減少する漆器は製法が中国の戦国時代、漢代の簡略な技法と類似している。弥生時代中後期には塗膜が非常に薄くなり、柿渋を塗布した可能性もある。同時代に下地に黒色顔料、上に透明漆を塗布したものも出現し、古墳時代まで継承されていく。滋賀県出土の奈良時代の試料から下塗りに骨粉を用いたものあり、本試料は国内で始めて確認された骨粉の使用例である。平安京跡の試料からは、従来、不明であった塗膜中の黒色顔料を初めて検出することができた。

第 4 章:東アジア各地域の遺跡の出土漆器について研究した。中国の出土品については戦国時代、秦、唐、宋、などの各時代の試料を比較した。中国古代の漆器の塗膜構造の特色としては、以下のような点が明らかにされた。戦国時代では精巧な漆器の下地に黒色の簡略な下地(泥地)を施している。漢代以後、宋代にかけて下地に骨粉を混和している。漢代では黒色顔料を混和した漆を下塗にしている。又、辰砂を混和した漆を下塗とし、表面に透明漆、または黒色漆を塗布したものもある。朝鮮半島樂浪郡の樂浪王墓出土品には木材の芯に布を貼ったものと貼らないものが見出された。更に他の地域の出土品と異なる点は、

下地に骨粉を使用したものが存在しないことであり、製作地域による技法の差が明らかになった。

第5章：漆器に特有な各種の技法の時代による変遷について各論的に研究した。まず、蒔絵は我が国の漆器を代表する工芸品であるが、現在までの研究は、外観を主とした美術史的見地の研究が主なものであった。申請者の研究の結果、平城京跡出土品から奈良時代に研出（とぎだし）漆絵技法が存在し、また素地に黒色顔料を混合する技法は古墳時代から継承されてきたことを実証した。平安時代後期には塗膜構造が簡略化されている。中国における骨粉利用技術の変遷については、漢代から宋代まで継承されているが、地域により使用材料が異なっていることが分かった。黒色顔料の変遷については、技法が漢代に発祥し、日本では福岡県の弥生時代後期の出土品に始めて出現し、奈良時代まで継承されていることを見出した。簡略な塗膜構造の漆器は中国の戦国時代から出現し、漢代へ継承されている。これと類似した技法は九州の縄文時代晩期後半から弥生時代前期初頭に出現する。

論文審査の結果の要旨

本論文は、関連分野の代表的な学会誌（審査付き）に掲載された申請者を筆頭名とする6編の論文を基礎にしている。申請者は京都大学理学部を卒業後、(財)京都市埋蔵文化財研究所において、出土遺物の保存科学に関する研究を続け、本論文の成果を得たものである。

考古学的に出土例の多い漆器について、塗膜層断面の微細部分についての観察手段を開発し、多数の資料について詳細な科学研究を行なった結果、従来不明であった問題点の解決、新しい事実の発見など多くの成果を得た。中国、日本など各地域の重要な出土品を網羅的に多数調査することにより、製作地、製作年代、製作技法の変遷などに関して解明の端緒を与えるもので、考古学、美術史などの分野に寄与する点も大きい。